

2. 2 津軽暖流流量調査

担当者 調査研究部 渡野邊雅道

共同研究機関 青森県水産総合研究センター
中央水試資源管理部海洋環境 G

(1) 目的

道南太平洋海域での漁場形成等に大きな影響を与える津軽暖流水の挙動を明らかにするため、津軽暖流流量を把握する事を目的とする。

(2) 経過の概要

平成5年度に青森県水産試験場（現青森県水産総合研究センター）との共同研究を開始した。平成7年度からは、年4回を基本に試験調査船金星丸に搭載されている ADCP（超音波ドップラー式多層流向流速計）を用いて、津軽暖流の流量調査を実施してきた。平成19年度以降は、燃油高騰、職員数削減などの理由により調査船調査を休止しているが、調査体制が整い次第再開を予定している。

(3) 得られた結果

現在は調査船調査を休止しているため、新たな調査データを示すことができない。なお、青森県水産総合研究センターは、平成23年の3月に津軽海峡東口において ADCP を用いた流量観測を1回実施した。

平成22年12月に、青森県水産総合研究センターの担当者と、本事業の今後の進め方について打合せを行った。その結果、本事業で過去に収集した調査データを平成23年度中に整理し、その活用法を今後検討していくことを申し合わせた。